

学位論文及び審査結果の要旨

氏名	福尾 匠
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	都市博甲第2227号
学位授与年月日	2021年3月25日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	ドゥルーズの非美学——哲学と実践

論文審査委員	主査	横浜国立大学 准教授	平倉 圭
		立命館大学 特任教授	小泉 義之
		立教大学 教授	江川 隆男
		立命館大学 教授	千葉 雅也
		横浜国立大学 教授	樽沼 範久
		横浜国立大学 教授	彦江 智彦

論文及び審査結果の要旨

本論文は 20 世紀フランスの哲学者、ジル・ドゥルーズの著作群を〈哲学の実践性〉および〈芸術との関係〉という観点からその機構の解明を目指すものである。哲学の「実践性」とは、具体的なものとの出会いにおける哲学の変形を意味し、ドゥルーズにとって芸術は特権的な出会いの対象であった。本論文は、諸々の芸術について哲学がどう語ったかに注目するのではなく、また芸術に見られる極限的な感性の実験に哲学を同化させるのでもなく、哲学が芸術から自律しつつなおそこから変形作用を受ける仕組みを解明しようとする点において、先行研究に対して明白な独自性がある。この問題系を本論文は「非美学」と呼ぶ。

論文は次のように構成される。第 1 章は初期ドゥルーズがカント美学における諸能力の協調を批判しつつも、異質な能力を媒介する「想像力」への両義的態度を保持したことを指摘する。第 2 章は媒介的想像力なき「イメージ」概念に取り組んだドゥルーズの映画論を通し、この概念が芸術と哲学の自律性と媒介なき創造的関係を支えることを示す。第 3 章はドゥルーズの「地層」概念の変遷を辿ることで、哲学と芸術の相互自律的關係がいかなる存在論的枠組みのうえに成り立っているのか、そこから哲学の可変性がいかに規定されるかを論じる。第 4 章では言語実践としての哲学の特異性を、言語行為論および概念の自己定立という観点から読解する。第 5 章は特異な哲学的言語実践としてドゥルーズが挙げる「概念的人物」の創造について、ベルクソンの『物質と記憶』を例に解明する。第 6 章はこれまでの議論を総合しつつ、ドゥルーズにおける哲学と芸術の異質性と、哲学が芸術に出会うことによる創造性の両立を、非美学という概念のもとに明確化する。

審査では総合的なドゥルーズ論に要求されるものという観点から、構成の明瞭性、異なるトピック間の接続の妥当性、「非美学」に対する「美学」および感覚の唯物論の規定、「超越論的経験論」・「抽象機械」等重要概念との関係、「地理哲学」との関係、非美学概念の語源的検討等について課題が指摘された。しかし、感性から切り離された「非美学」という独創的視点からドゥルーズ哲学の新たな読解可能性を示したという達成があり、博士の学位に相当すると判断した。

なおiThenticateで剽窃盗用の有無を確認し、引用、専門用語、短い一般的語句以外に重複は見られないことを確認した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。